

# 甲府城下町 タイムスリップ コース



**御金蔵稲荷**  
(おきんぞういなり)  
泥棒除けにご利益!  
公金が何と1400両以上も盗まれたという、享保19年(1734)の有名な甲府城御金蔵破り。その後造られた御金蔵が移転し、昭和初期にお稲荷さんとして生まれ変わりました。今では逆に泥棒除けのご利益があると親しまれています。  
●朝日二丁目

**慶長院**  
(けいちょういん)  
風情のある庚申塔  
甲府城の山手御門から移築されたと伝わる冠木門があります。境内には歴史を感じさせる風情豊かな庚申塔も。  
●朝日三丁目

**甲府上水跡**  
(こうふじょうすいあと)  
水不足の対策水路  
甲府城下町の水は鉄分が多く、飲用には不向きなため、相川と荒川から取水し、堰が敷設されました。それでも明治に新上水路が建設されるまでは慢性的な水不足に悩まれ、周辺一帯では紛争が頻発しました。

◆二の堀跡を歩く「近世城下町」  
甲府城を中心に周囲には、武家屋敷や町人地などがありました。現在の堀のほとんどが埋め立てられてしまいましたが、二の堀跡周辺には、まだまだ意外な発見もありそうです。



**柳町大神宮**  
(やなぎまちだいじんぐう)  
横近習大神宮  
(よこぎんじゅだいじんぐう)  
節分には通りが出店です。甲府三大祭りのひとつ、節分祭で有名な二つの大神宮。地元の人々に「大神(だいじん)さん」と呼ばれ、古くから親しまれています。2月3日には赤鬼や青鬼も登場して盛大に豆まきが行われ、大勢の人でにぎわいます。

**舞鶴城公園**  
(まいづるじょうこうえん)  
百名城に登録  
武田家滅亡後、豊臣系大名により築城された甲府城を別名「舞鶴城」と呼んでいます。江戸時代は江戸防衛の一翼を担う大切な城でした。現在一帯を公園として無料開放。最近では鍛冶曲輪門や鉄門(くろがねもん)、稲荷櫓も復元されました。最上部からは甲府市南方面が一望!!歩いたコースを見てみましょう。  
DATA※JR甲府駅南口「稲荷櫓(いなりやぐら)」他  
●9:00~16:30(入館は16:00まで) ●月曜(祝日は開館)、祝日の翌日、12月29日~翌年1月3日  
●無料

**二の堀跡**  
(にのほりあと)  
北から西側にあった堀  
甲府城の武家地の内郭部分を囲んでいた堀の跡。甲府勤番役宅や年貢米を保管する米蔵、薬園、学問所(徴典館)などがありました。ここから三の堀のエリアは商人や町人の住む地域とはっきり区分けされていました。

**御先手小路**  
(おさきてこうじ)  
治安維持の隊の名が道  
江戸期、各門の警備や治安維持、將軍外出時の護衛などを任されていた先手組(さきてぐみ)にちなんで名づけられました。甲府城北郭内に位置した南北の小路のことで、



**甲斐奈神社で合格(ごをかく)祈願する?**  
社境内西側にある小さいお社群のなかのひとつに「五を書く」場所があります。つまり「ごをかく」...

**御先手小路**  
(おさきてこうじ)  
治安維持の隊の名が道  
江戸期、各門の警備や治安維持、將軍外出時の護衛などを任されていた先手組(さきてぐみ)にちなんで名づけられました。甲府城北郭内に位置した南北の小路のことで、

**甲府駅北口**  
120分コース  
(滞在時間は含まれません)

**ゴール**  
甲府駅北口  
120分コース  
(滞在時間は含まれません)

**スタート**  
甲府駅北口  
120分コース  
(滞在時間は含まれません)

**スタート**  
御先手小路  
(おさきてこうじ)  
治安維持の隊の名が道  
江戸期、各門の警備や治安維持、將軍外出時の護衛などを任されていた先手組(さきてぐみ)にちなんで名づけられました。甲府城北郭内に位置した南北の小路のことで、

**スタート**  
甲府駅北口  
120分コース  
(滞在時間は含まれません)

**スタート**  
二の堀跡  
(にのほりあと)  
北から西側にあった堀  
甲府城の武家地の内郭部分を囲んでいた堀の跡。甲府勤番役宅や年貢米を保管する米蔵、薬園、学問所(徴典館)などがありました。ここから三の堀のエリアは商人や町人の住む地域とはっきり区分けされていました。

**スタート**  
三の堀跡  
(さんのほりあと)  
今も残る大外の堀の跡  
城を中心に内堀、二の堀、三の堀に分けられていた甲府城下町。三の堀は一番外側にあり、商人や職人が住むいわゆる下町エリアでした。

**スタート**  
亀屋座跡  
(かめやざあと)  
小江戸と呼ばれた名残  
江戸期の有名な芝居小屋跡。間口11間、奥行20間という規模で、関東有数の大きなものでした。甲斐国は市川團十郎ゆかりの地であり、江戸のスター役者が次々と来演しました。

**スタート**  
山神社  
(やまじんじゃ)  
桶屋町の木に対する崇敬  
江戸時代、ここは桶職人の町でした。職人たちが扱う木を敬い、山の神を祀っています。

**スタート**  
山神社  
(やまじんじゃ)  
桶屋町の木に対する崇敬  
江戸時代、ここは桶職人の町でした。職人たちが扱う木を敬い、山の神を祀っています。

**スタート**  
山手御門  
(やまてごもん)  
昔ながらの工法で復元  
山手御門は甲府城に設けられた主要3門のひとつで、樹形門(渡櫓門)と高麗門を二重に配置した門の形式で造られています。渡櫓門は武器庫という役割もありました。渡櫓門の中には歴史資料も展示され、展望スペースからの眺めも抜群です。

**スタート**  
舞鶴城公園  
(まいづるじょうこうえん)  
新撰組(甲陽鎮撫隊)が入っていたかもしれません  
幕末、新撰組は鳥羽伏見の戦いに敗れ江戸へ帰りました。その後、近藤勇は「甲陽鎮撫隊」を組織。甲府へ向かいましたが、勝沼に到着した頃には、甲府城はすでに板垣退助ら官軍方の手に。結局、両軍は勝沼で戦い、官軍が勝利。近藤勇がもう少し早く甲府に向かっていたら、甲府城の歴史も違っていたかもしれません。

**スタート**  
金手駅  
(かねてえき)  
敵が攻め入る場合を想定し、直線の道を2つの直角で曲げている様子が大工さんの使う「金尺」に似ている事から「金手」と名がついた地区です。

**スタート**  
甲斐奈神社  
(かいなじんじゃ)  
信玄の父、信虎ゆかりの地  
当初、愛宕山山頂に鎮座していましたが、武田信虎の築城に際し、現在の地に遷座。甲斐国鎮守の神として尊崇されてきました。同名の神社は県内に三社あります。

**スタート**  
天尊鉢寺  
(てんそんたいじ)  
江戸時代の旗本の墓石も多数残るお寺です  
ここへ移転する前は甲府北部にあって徳川家康が本陣とし、大久保長安ともゆかりの深いお寺です。

**スタート**  
金山神社  
(かなやまじんじゃ)  
職人の信仰が今も残る  
武器製造から農具製造まで、鍛冶職人エリアだった周辺。職人たちが敬う踏鞴(たたら)の神を祀る神社です。犬が力。

**スタート**  
文殊稲荷  
(もんじゆいなり)  
親の願いは何時も同じ  
文殊(知恵)を司る菩薩を祀るお稲荷さん。創立は文政以前と伝わります。毎年9月にはお祭りが行われます。

**スタート**  
笠森稲荷  
(かさもりいなり)  
狐様の流し目が必見  
享保年間(1716~1735)に愛宕町より分霊・奉斎されたと伝えられる神社。五穀豊穰・商売繁盛のご神徳が厚いといわれます。

**スタート**  
笠森稲荷  
(かさもりいなり)  
狐様の流し目が必見  
享保年間(1716~1735)に愛宕町より分霊・奉斎されたと伝えられる神社。五穀豊穰・商売繁盛のご神徳が厚いといわれます。

**スタート**  
三念坂  
(さんねんざか)  
命名センスが素敵  
「ここで転ぶと良くないので、念を入れて転ばないように歩きなさい」といういわれがある坂。坂の上から富士山がよく見えます。

**スタート**  
ゴール  
甲府駅北口  
120分コース  
(滞在時間は含まれません)

**スタート**  
ゴール  
甲府駅北口  
120分コース  
(滞在時間は含まれません)

**スタート**  
ゴール  
甲府駅北口  
120分コース  
(滞在時間は含まれません)

**スタート**  
ゴール  
甲府駅北口  
120分コース  
(滞在時間は含まれません)

**スタート**  
ゴール  
甲府駅北口  
120分コース  
(滞在時間は含まれません)

**スタート**  
ゴール  
甲府駅北口  
120分コース  
(滞在時間は含まれません)

**スタート**  
ゴール  
甲府駅北口  
120分コース  
(滞在時間は含まれません)

**スタート**  
ゴール  
甲府駅北口  
120分コース  
(滞在時間は含まれません)

# 甲府城下町 タイムスリップ コース

甲斐府中の古道を歩く

武田家三代の盛衰体感

二の堀跡を歩く  
その華やかな町人文化

甲州道中+α(酒折+中心街)

弘法大師伝説+α  
太宰治が愛したまち+α

中道古墳群+α  
山崎方代/長田円右衛門

◆その華やかな町人文化「近世城下町」  
名君であった信玄の治世を経て、幕府直轄領の時代の甲府(駅南部)には、安心感からが職人や商人の暮らす下町にも小江戸気分が漂いました。